

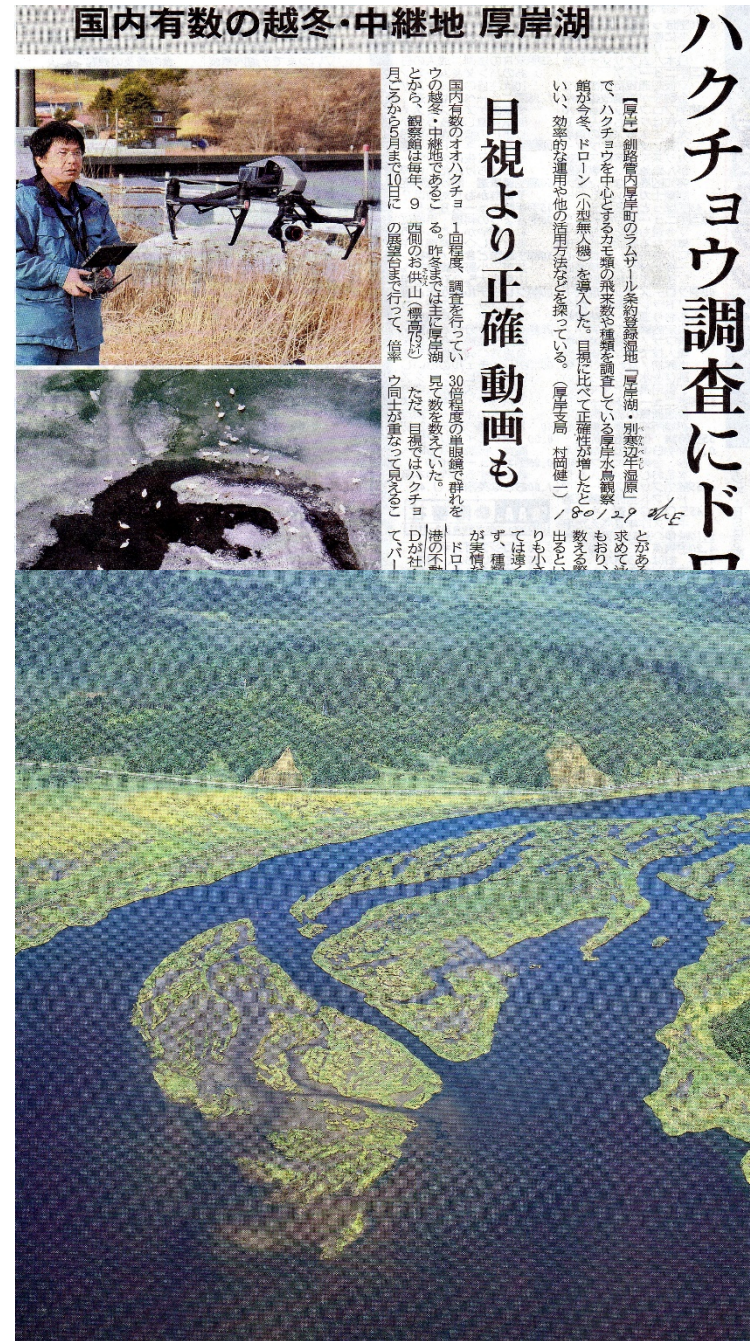
# 厚岸湖・別寒辺牛湿原とその周辺域に 生息する野生鳥獣の寄生虫相 －その特色と疫学的な意義－

谷口 萌<sup>1)</sup>、小亀 舜<sup>1)</sup>、吉野智生<sup>1, 2)</sup>、○浅川満彦<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>酪農学園大学獣医学群、<sup>2)</sup>釧路市動物園

# 背景

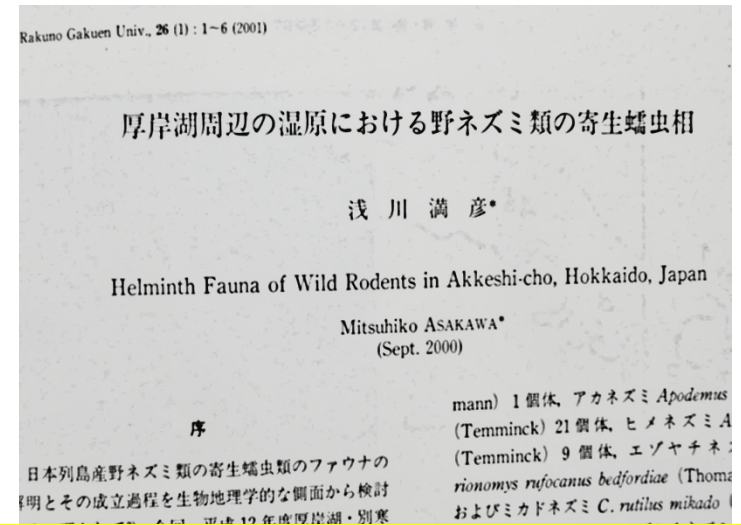
厚岸湖・別寒辺牛湿原(以下、湿原)は根釧地方の別寒辺牛川流域に広がる約8300haの地域。優れた自然環境を残し、大半がラムサール条約(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)の登録湿地指定。厚岸町はこの優れた自然景観を保全しつつ、安心安全な町民生活確立と持続的産業形成を実施。



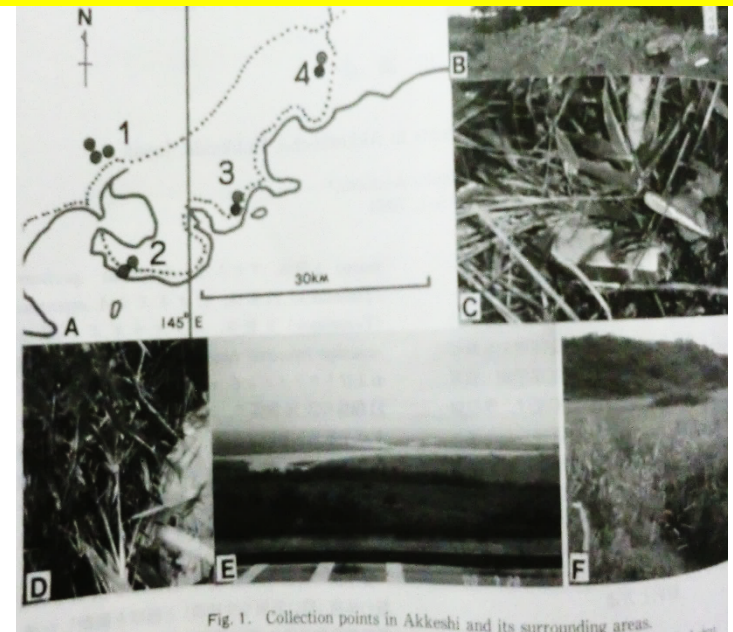
# 目的

保全医学 (One Health, one world の理念を実践するサイエンス) の研究・教育拠点、酪農学園大学野生動物医学センター (以下、WAMC) は、演者らが設立以前から根釧地方を重要な研究地域として認識；特に、2000年、厚岸町の湿原学術研究奨励補助金の小哺乳類調査実施。なお、根釧含む地域貢献型研究例は昨年の本大会で概要紹介。博物館紀要別刷りを合本した配布資料もご参照)。

2017年、同助成による中型哺乳類/鳥類 (一部、魚類) の寄生虫保有状況について調査。検討中であるので、今回、中間報告を行う。



“酪農大”, “clover”, “浅川”, “厚岸” で検索、Pdfヒット





2017年7月から同年11月にまで、厚岸水鳥観察館に冷凍保存された交通事故/有害捕獲された個体で、次のような種(亜種)および個体数であった[アカギツネ(キタギツネ)24、ノイヌ5、タヌキ(エゾタヌキ)1、ノネコ5、アメリカミンク1、ニホンイタチ1、コシジロウミツバメ1およびハシブトガラス1]。外部寄生性節足動物については体表の肉眼にて、体内の寄生蠕虫(一部、原虫)については肉眼と実体顕微鏡下検査。得られた寄生虫は70%エタノールにて固定・保存。形態分類に必要な光学顕微鏡観察では、寄生虫のグループごとに適した処理をした。また、これらに水鳥館のサンプルに加え、周辺地域の材料(後述)についても同様な方法で検索。

## 材料と方法



# 結 果(イヌ科)

ヒトの健康被害に大きな影響を与える多包条虫 *Echinococcus multilocularis* の保有状況を把握するため、好適終宿主であるアカギツネ4個体とノイヌ1個体の計5個体を優先的に検索。その結果、外部寄生虫および多包条虫は得られず、線虫類のイヌカイチュウ *Toxocara canis* (キツネ、イヌ) と吸虫 *Alaria alata* (キツネ) 確認。





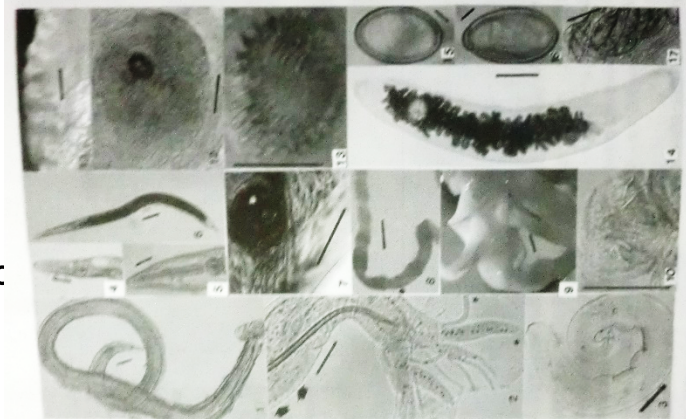
# コメント

2000年実施の野ネズミ類調査でも多包条虫メタセストデ(多包虫)未確認(浅川,2000:右)。今回の結果をあわせても湿原における多包条虫の濃厚な存在(例:90年代、酪農大キャンパス含む野幌森林公園のような)を積極的に裏付ける証拠は得られず。しかし、湿原における多包条虫の不在を示すものではないので、特にイヌ科動物を扱う際は、慎重に取り扱うべき。町民へのさらなる啓発が必須。

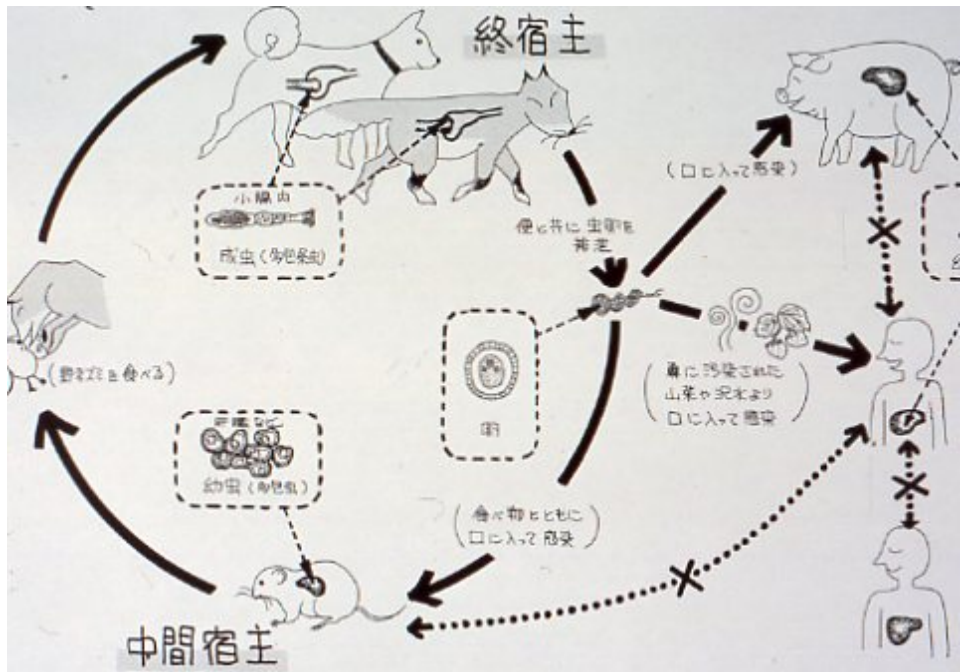
Table 1. Occurrence of parasitic areas, Hokkaido, Japan.

Parasitic Helminths	Mizudori-ka		
	Ts* (1)	As (14)	Aa (4)
<b>Nematoda</b>			
<i>Heligmonoides speciosus</i>	0	14	2
<i>Heligmosomum</i> (Para- <i>heligmosomum</i> ) <i>yamagutii</i>	0	0	0
<i>Syphacia agraria</i>	0	5	0
<i>S. emileromani</i>	0	0	1
<i>S. montana</i>	0	0	0
<i>Rhabditis</i> ( <i>Pelodera</i> ) <i>orbitalis</i>	0	7	0
<b>Cestoda</b>			
<i>Catenotaenia</i> sp.	0	0	0
<i>Hymenolepis horrida</i>	0	0	0
<i>Hymenolepididae</i> gen. sp.	0	1	0
" <i>Cladothyridium</i> sp. 1"	0	0	0
<b>Trematoda</b>			
<i>Brachylaima</i> sp.	0	0	0
helminth free	1	0	1

\*: Abbreviations of host names. Ts, *Tamias sibiricus*; As, *Castor moschatus*; Aa, *Castor sibiricus*.  
Cm, *C. rutilus mikado*.  
Parentheses indicate no. of small rodents examined.



Parasitic helminths from rodents collected in Akkeshi and its surrounding of body of male *Heligmosomus speciosus* from *Apodemus sibiricus*. Scale bar





# 結果/コメント(鳥類)

(大黒島、繁殖)コシジロウミツバメ、寄生虫陰性。窓ガラス衝突、斃死したキクイタダキからシラミバエ類 *Ornithomya fringillina*。最近、利尻島でも発見されたばかりであったので、この外部寄生虫の地理的な分布域が道内で広範囲分布確認 (Yoshino and Asakawa, in preparation)。

外部寄生虫標本は、動物が生きていても採集出来るが、体内蠕虫は死体からの採集が一般的。しかし、湿原のように希少種が生息するような地域では剖検によらない非観血的な代替法も必要。これに示唆を与えたのが次の事例。





# 結果(魚類)

2017年11月4日、久著路川にて疑似餌フライフィッシングにより釣り上げたニジマス *Oncorhynchus mykiss* 1 個体(体長約44cm)から、胃内容物をスポイトで吸引した。その結果、ヒゲナガカワトビケラ *Stenopsyche marmorata* 幼虫と蠕虫が付着したフトミミズ類採集。蠕虫は鉤頭虫と判明したが、虫体が厚く、形態観察困難。概観とサイズからサケ科で頻繁に報告される *Acanthocephalus* 属か。



計25個体の鉤頭虫、15個体が破損フトミミズ類体腔壁/中腸漿膜などに吻刺入。一方、損傷無フトミミズ類/トビケラ幼虫体壁に附着は無し。フトミミズ類体表/腸盲囊から、後者はヒトツモンミミズ、前者はフキソクミミズ/これに近い種。両種とも道内広域表層を棲み処。腐葉土層が降雨等により川に落水。このニジマスが得られた前日から降雨あり。

## 結果(魚類)





## コメント(魚類)

鉤頭虫は鉤を備えた吻を腸粘膜刺入、穿孔、致死的腹膜炎などの原因。寄生の有無は野生動物の健康管理上、必須。この例は生体から簡便に鉤頭虫寄生が確認したもので、非観血的蠕虫検査のヒントとなると考えられた(浅川ら、印刷中)。